

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和
7年
7月

ここ栃木では毎日過酷なほどの暑さが続いています。皆さま、いかがお過ごしですか？頑張ることも大切ですが、しっかり食べて、ゆっくりする時間も大切にしてくださいね。では、7月 Newsletter 第83回配信です。

【診療科紹介 呼吸器内科】

今回は呼吸器内科についてご紹介します。呼吸器内科で診療する疾患は、腫瘍（肺癌、縦隔腫瘍など）、感染症（細菌性肺炎、肺化膿症、肺結核、肺真菌症など）、アレルギー性疾患（気管支喘息、過敏性肺炎など）、間質性肺炎（膠原病肺、特発性など）、胸腔疾患（気胸など）など多岐にわたります。また、特に急患は呼吸不全を伴うことが多く、全身管理、呼吸管理を行う必要があります。ここ数年はCOVID-19感染症による重症肺炎との戦いが続き、多忙な毎日ではあるものの社会に貢献しているという実感を得ることができました。忙しい中にも充実した時間を過ごし、新たな経験ができたことで、呼吸器内科医の活躍の場がより一層広がったと思います。

一方、需要（患者数）に対してまだまだ供給（呼吸器内科医数）が足りていないのがわが国の現状です。そのぶんとてもやりがいのある科だと思いますし、一度きりの人生を呼吸器内科医として活躍したい学生さんはいませんか？ぜひ皆さん、自治医大呼吸器内科を一度見学しにきてください！先月撮影した医局員の集合写真です。



【医師国家試験予想問題】

呼吸器内科疾患は比較的イメージのしやすい疾病が多く、国家試験でもしっかりと点を取りたいところだと思います。特に近年、肺癌診療の進歩は目覚ましく、診断と治療は常にアップデートする必要があります。肺癌診療ガイドラインも毎年更新されますので、新しい知識を習得していく必要があります。今回は非小細胞肺癌と小細胞肺癌から 1 問ずつ確認してみましょう。

問題：

進行期非小細胞肺癌（NSCLC）において、EGFR 遺伝子変異陽性の術後病理病期 II-III B 期（第 9 版）完全切除例に対する術後補助療法として、2024 年版肺癌診療ガイドラインで推奨されている治療はどれか？

選択肢：

- A. 術後補助化学療法後にオシメルチニブを 3 ヶ月間投与する
- B. 術後補助化学療法後にオシメルチニブを 6 ヶ月間投与する
- C. 術後補助化学療法後にオシメルチニブを 1 年間投与する
- D. 術後補助化学療法後にオシメルチニブを 2 年間投与する
- E. 術後補助化学療法後にオシメルチニブを 3 年間投与する

正答：

- E. 術後補助化学療法後にオシメルチニブを 3 年間投与する

解説：

ADAURA 試験では、完全切除後の EGFR 遺伝子変異陽性（Exon 19 欠失または L858R 変異）NSCLC 患者に対し、オシメルチニブを 3 年間投与することで、無病生存期間（DFS）および全生存期間（OS）の有意な延長が示されました。この結果を受けて、プラチナ製剤併用療法後にオシメルチニブ（3 年間投与）による治療の追加を行うよう弱く推奨されています（エビデンスの強さは B，推奨の強さは 2）。ちなみに推奨の強さが 1 とならなかった理由として、「3 年間の術後補助療法であり、有害事象に懸念がある」「患者の希望として、無治療で副作用のない時期を大事にしたいという意見もある」などが挙げられました。

問題：

進展型小細胞肺癌（ED-SCLC）患者に対する一次治療として、2024年版肺癌診療ガイドラインで推奨されている治療法はどれか？

選択肢：

- A. プラチナ製剤のみによる治療
- B. プラチナ製剤とエトポシドの併用による治療
- C. プラチナ製剤とエトポシドに免疫チェックポイント阻害剤を加える治療

正答：

- C. プラチナ製剤とエトポシドに免疫チェックポイント阻害剤を加える治療

解説：

PS O-1 の ED 症例を対象に、CBDCA+ETP（CE 療法）+アテゾリズマブ（PD-L1 阻害薬）後にアテゾリズマブ単剤での維持療法を行う治療（IMpower133 試験）や、プラチナ製剤併用療法+デュルバルマブ（PD-L1 阻害薬）後にデュルバルマブ単剤での維持療法を行う治療（CASPIAN 試験）などの結果から、進展型小細胞肺癌（PS O-1）にはプラチナ製剤併用療法+PD-L1 阻害薬の併用治療を行うよう強く推奨されています。

自治医科大学附属病院呼吸器内科 山内浩義